

太宰府市立中学校標準服
検討報告と運用等に関する指針



令和2年 5月

太宰府市立中学校標準服検討委員会

太宰府市立中学校標準服 検討報告と運用等に関する指針

太宰府市立中学校標準服検討委員会

1. 導入の目的、めざすものについて

(1) 導入の目的

現在、太宰府市立の4中学校ではそれぞれ独自の制服が採用されています。生徒や保護者は自校の制服に愛着を持ち、地域の人たちにも学校のシンボルの一つとして親しまれています。また、各中学校では制服リレー活動も盛んに行われるようになってきています。

しかし一方で下記のような課題もみられます。

- ・各中学校の仕様が異なるため公立中学校間で価格差があること。
- ・性差のある制服に対する負担がある生徒への配慮など、多様性を認めていく時代に対応するデザインへの変更が必要であること。
- ・学校規模の違いにより制服リユースの活動に差が生じていること。

これらの現状と課題をふまえ、これからを見据えた標準服のあり方を検討する『太宰府市立中学校標準服検討委員会』が組織されました。

検討委員会では上記課題の改善を含む、制服に対する経済的負担の軽減、多様性への配慮、機能性の向上等について、協議、検討を進めていく中で、4中学校統一仕様のものですることが望ましいと考え、諸課題にできる限り対応した、「令和」発祥の都太宰府の未来を担う中学生にふさわしい太宰府市立中学校標準服を定めていくことといたしました。

(2) めざす標準服の配慮事項

下記の事項についての検討を行いました。

機能的配慮	体温調節、活動	近年の気温の上昇、空調導入等、気温差に対応しやすく、また、様々な活動の支障にならない動きやすいデザイン、生地等とする。
	耐久性、お手入れ	3年間着用するための耐久性、生徒の成長に対応できる仕様、家庭でのケアがしやすい素材等を採用する。
生徒への配慮	防犯面	スラックス等の導入、学校名、氏名の刺繍以外での氏名表示方法を検討する。
	性的マイノリティ	男女差のないもの等の導入により、性差のある制服に対する負担がある生徒への配慮を行う。
経済的配慮	四中学校統一服 ・4校中2校が詰襟、セーラー服であり配慮事項への対応が難しいため、各校での対応となる。また、4中学校の仕様が異なるため制服価格の学校間差がある。統一服とすることで数量が確保できるため価格を有意に下げることができる。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・現行もしくは現行以下の価格設定をめざす。 ・さらに見た目に分かりにくい程度の素材の違いにより価格帯の選択ができる等の経済的な配慮を行う。 ・平成29年度に発表された公正取引委員会の調査結果をふまえた取引の研究を行う。 	
現行の制服の課題の改善		現代の様々な状況にできる限りよりよく対応したものにする。 上記以外にもきめ細かな改善を行う。

2. 検討状況

上記の導入の目的、めざす標準服の配慮事項を念頭に、令和元年10月から「太宰府市立標準服検討委員会」を10回実施してまいりました。

取組みのあるべき方向性、検討方法についての協議を重ね、12月にはメーカーによるプレゼンテーションを受け、めざす標準服の配慮事項に合うものかの聞き取り、確認を行いました。

その間、市立小中学校PTA代表、小中学校、学校運営協議会、自治協議会、議会へ、また市民の皆様へも広報、隣組回覧、ホームページ等を通じて本取組みの目的についてご理解をいただく活動を行ってまいりました。1月に行いましたメーカーサンプル展示会では主に児童生徒、保護者、教職員など、450人の方にお越しいただきました。一人ひとりに導入の目的等をお伝えすることができたとともに、アンケートによるご意見をいただきました。そのご意見も参考に検討を進め、次の結果となりました。

3. 検討結果（デザインと主な仕様（概要））

本検討委員会で採用いたしました標準服は次のとおりです。

標準服とする範囲は 上着、ボトム（スラックス、スカート）、シャツとします。

（ネクタイリボン推奨デザインです）

詳細な設計、仕様等については、別に仕様書を検討委員会事務局にて保管します。



- ・着脱がしやすく、気温差に対応しやすいブレザータイプを採用
- ・軽く動きやすい素材、ご家庭でのお手入れ（洗濯）ができる等の最新の機能性
- ・シャツもニット素材で透け防止、かつノーアイロンでお手入れが楽（綿素材も選べます）
- ・名前の刺繍はせずに、防犯面とリユースに配慮したサスペンダー仕様の名札付けを採用
- ・上着の袖には反射材を採用。特に夕方から夜間の交通安全面に配慮
- ・男女の差が少ないデザインを採用
- ・上着の前合わせは左右どちらでも可能なボタンホールの仕様
- ・スラックス、スカートの選択は自由
- ・市内の現行の制服のうち、低価格の制服と同価格帯での製作が実現可能な仕様

4. その他採用にあたって検討した主な事項

どのメーカーについても依頼した配慮事項について、工夫をされた提案であった。

○展示会アンケートでも意見の多かったシャツは、各社、研究を重ねられた透け防止加工が施されていた。よって近年の夏季の気温上昇も考慮し、ベストは標準服としないこととした。ノーアイロン加工のシャツの採用を基本とするが、アレルギーを持つ生徒、好みの素材もあることから、形のみ指定とし、素材は指定しない。胸ポケットのワンポイント刺繍により、標準指定のものとする。

○女子スラックスはすでに福岡県立高校の一部で採用されており、今後少しずつ着用する生徒が増えていくことで、選択しやすい環境となっていくことを期待する。また、学校においては本取組みの目的を理解し、多様性を認める社会の実現に向けた教育に努める。

○キュロットはボトムを選択肢が増えるものの、各制服メーカーの通常の製造ラインにないため、製造時間とコストがかかること、ズボンと違って広がるため着脱がしにくいこと等の問題点がある。全国でもこれまでキュロットを採用していた学校も、スカートに変更している事例が多いことと、本取組みの目的（多様性への配慮）はスラックスの導入によりある程度達成できることから、今回はキュロットの選択肢を除いた。

○従来の刺繍による名札は防犯面、リユース面、また上着、シャツすべてとなると数か所に入れることとなり費用面でも課題があった。つけ外しもでき、1つを年間で使用できる、ネームプレート型とした。色、形状等は各中学校にて決定するものとする。

○移行期間については、一定期間の必要性は認めるものの、どこかの時期での区切りもやむを得ないとする。標準服初年度（令和3年度）入学から令和5年度入学の生徒が卒業の翌年度を区切りとした。

○統一仕様の標準服とするにあたり、採用メーカーからは下記のコンセプトでの提案があった。太宰府を感じ、中学校生活を共に過ごす、生徒のみならず、地域からも愛着が持てる標準服になることを願い、本デザインを採用する。

太宰府らしさのコンセプト『 結ぶ 』

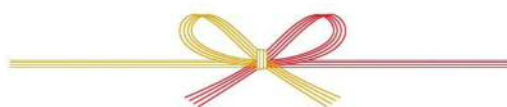
未来の中学生と 古都 太宰府を結ぶ。

4つの中学校を結ぶ。

地域の方々と中学生 中学校を結ぶ。

そして、太宰府と全国を、世界を結ぶ。

結ぶ



「令和」発祥の都、太宰府で中学校生活を送ることを、また市内のどの中学校を卒業しても太宰府を誇りに思える「絆」となる標準服であってほしいとの思いを込めました。

- ボタンは太宰府市立中学校標準服オリジナルシンボルマークを使用。シャツの胸元にも同デザインの刺繍が入ります。
- 上着の紺色はオリジナル色の紫紺。襟には市の花梅を刺繍であしらいました。
- 梅模様、条坊制の街並みを表現したネクタイリボン柄となっています。(ネクタイリボンは推奨デザインです。)



5. 各中学校における標準服の細部検討について

標準服とする範囲は上着、ボトム（スラックス、スカート）、シャツとします。(ネクタイリボンは推奨デザイン)

各中学校において検討、決定することについては以下のとおりです。標準服導入の目的等をふまえ、検討を行ってください。

- (1) ネクタイリボンの有無の検討。有の場合は、推奨デザインからネクタイのみ、ネクタイとリボンの選択制、もしくは推奨デザイン外を検討。色については各中学校の希望を提出してもらい、重なった場合は調整を行います。
- (2) 名札。

6. 標準服の運用について

- ・令和3年4月に入学の生徒は新たな標準服を着用することとする。ただし、移行期間として、現行の制服の着用を認める期間を3年とする。(令和3年度から令和5年度入学の生徒まで)
 - ※令和3年度から令和5年度入学の生徒については、卒業するまで現行の制服の着用を認める。現行の制服の一部着用も可とする。
 - ※令和6年4月入学の生徒については新たな標準服を着用する。
- ・令和3年度の中学2、3年生の新たな標準服の着用については、特別な制限は設けず、着用してもよい。
- ・スラックス、スカートについては、生徒、保護者が自由に選択し、着用できるようにすること。申請制とするなどの取り扱いがないようにすること。
- ・ネクタイリボンの両方を採用する学校については、生徒、保護者がネクタイリボンのどちらを着用するか自由に選択できるようにすること。
- ・その他必要な事項は各学校と検討委員会（事務局）にて協議する。

7. 協力メーカー（50音順）

- ・株式会社 明石スクールユニフォームカンパニー
- ・有限会社 イトヤ
- ・瀧本 株式会社
- ・株式会社 トンボ
- ・福岡菅公学生服 株式会社